

会議名	港区帰宅困難者対策支援業務委託 第2回事業候補者選考委員会(第一次審査)
開催日時	令和3年3月15日(月曜日)～令和3年3月19日(金曜日)※審査期間
開催場所	書面会議による実施
委員	廣井委員長、長谷川副委員長、萩原委員、平原委員、中島委員、鈴木委員
事務局	防災危機管理室防災課地域防災支援係
会議次第	「港区帰宅困難者対策支援業務委託」事業候補者選考審査(第一次審査)
配布資料	[事前送付] ・「港区帰宅困難者対策支援業務委託」事業候補者選考審査票【第一次審査】 ・講評用シート(会議録作成のため) ・「港区帰宅困難者対策支援業務委託」第一次審査提出書類について ・A法人(東京都大田区所在の事業候補者)から提出のあった企画提案書等
会議の内容	
A 委員	<p>・事前送付した資料をもとに、各委員にA法人の企画提案書等の内容について審査、採点いただいた結果を事務局採点結果と合算し、第一次審査の結果を確定した。</p> <p>以下各委員から頂いた講評内容を記載</p> <p>様式 8 については、細かい点で疑問のある箇所があるものの、おおむね問題の認識はなされていると思う。</p> <p>様式 8-2 については、これまで経験があることから、従前の取り組みや地域特性的な課題をよく知っていると思われるが、地域防災との関係については企画提案書の意図と多少の食い違いがありそう(地域防災については、そこまで詳しくなさそうとも思う)。あとは津波の言及も見当たらなかった。</p> <p>様式 8-3 で言及されている、帰宅困難者対策の理想像についてはやや近視眼的な記述にとどまっている。アプリについても、月並みの提案に終始している印象。</p> <p>様式 8-4 の最後の点(webセミナーやデジタルの活用による協議会活動)は、記述を見る限り割と得意そうなので、来年度のうちにきちんと方式を確立してもらってもよいと思う。</p>
B 委員	<p>様式 8、8-2 について、帰宅困難者対策における課題を明確に捉え、対応策を提示できていると思うし、区の現状を適切に理解できていると思う。</p> <p>様式 8-3 の理想形の提示について、具体的ではあるがスマホアプリの活用に特化しすぎている感があり、アプリが使えない場合が想定されていない。</p>

	<p>様式8-4の内容については非常に具体的で、区が求めることと合致している。</p> <p>C 委員</p> <p>【企画提案書1(様式8)について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏の課題は概ね理解していると言えると思う。 ・一斉帰宅の抑制では“継続した”啓発が、一時滞在施設の確保では、協定締結や隣接区との連携が必要とのアイデアあり。具体的な進め方についてももう少し聞いてみたい。 ・感染症対策も、区のマニュアルを認識しており、一時滞在施設でも活用する考え方は良いと思う。 <p>【企画提案書2(様式8-2)について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区の帰宅困難対策(特に協議会については各地域ごとの特色)については十分に理解しているといえる。 ・帰宅困難対策と地域防災の役割分担について整理ができている。 <p>それを踏まえた上で帰宅困難者対策として取り組むべきことがもう少し深く述べられているとさらに良いと思う。</p> <p>【企画提案書3(様式8-3)について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理想形→“全協議会においてスマホアプリを活用した滞留者支援活動が一定以上実装できている状態にすることが重要となる。”が具体的にどのような状態なのかわかりにくい。 ・協議会参加企業者の担当変更や地域により参加者数が少ないという各協議会ごとの課題(ポイント)を把握し、対策を述べているところは評価できる。 <p>【企画提案書4(様式8-4)について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会を今後区が運営するにあたり、会議運営のノウハウだけでなくこれまでの課題に対する取組の具体例が上がっている点が良い。 <p>例:企業の新任担当者向けの研修やアプリの説明等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降、継続的に区が独自で取り組むにあたり具体的にどのような部分がポイントとなるの詳細に聞いてみたい。(特にアプリの活用部分について)。
<p>D委員</p>	<p>(様式8)</p> <p>都や区が取組について、概ね的確に課題等を認識している。提案書では、都内の一時滞在施設確保数43万人分に対して163万人分の都内滞留者数と比較しているが、都としては東京都帰宅困難者対策実施計画において受入対象となる「行き場のない帰宅困難者」の数を92万人としているため、一部認識が異なる部分があった。基本的な現状認識に加え、コロナ禍における対応についても触れられており、事業への深い理解が見受けられる。</p> <p>(様式8-2)</p> <p>個々の駅前滞留者対策協議会の実情について、よく把握していることが伺え、</p>

	<p>安定的な支援が期待できる。</p> <p>(様式 8-3)</p> <p>理想形として「一斉帰宅の抑制」と「駅周辺での滞留者対策」を提示するとともに、情報連携ツールとしてのスマートフォンアプリの活用方法に関して具体的な手段等も含め言及している。</p> <p>(様式 8-4)</p> <p>これまでの受託実績によるノウハウがあることのほか、事業所防災セミナーのWEB 開催や令和4年度以降を見据えた業務マニュアルを作成など、区の安定的な業務運営に資する提案があった。また、アプリやPC向けコンソール活用を想定した情報化構想の作成なども提案しており、都がR3年度から着手する帰宅困難者対策オペレーションシステムの内容も踏まえた方向性の検討も期待したい。</p>
E委員	<p>帰宅困難者対策について、企画書の内容は一般的な内容が多く、具体性が不足していると感じられた。近隣区との連携に触れている点は評価できるが、具体的な内容には触れられていない。また、一時滞在施設の確保策として税制優遇を提案しているが、既存の東京都による減免策との違いが分かりづらい。</p> <p>一方で、帰宅困難者対策に関する業務の経験は豊富であり、この経験を基に円滑に協議会運営が行われることが期待できる。</p>
F委員	<p>(様式8)</p> <p>感染症対策マニュアルの活用の発展形として、発生対策に関するガイドラインによるリスクコミュニケーションの視点は、画期的である。</p> <p>区の支援業務として、広域行政と基礎自治体の分担を超えた提案となっている面はある。(税制改正・他区連携)</p> <p>(様式8-2)</p> <p>アプリの活用や、ハイブリッド型支援など、現在の取組については、状況を知悉しているが、地域防災との関係性についての言及(関係性の整理)については、特段の提案は認められない。</p> <p>(様式8-3)</p> <p>デジタル活用の滞留者支援活動の提案は、これまでの取組の延長として期待が出来る。ただし、当事業者に発注することとなった場合、実運用に向けた提案としては、構想倒れにならないよう注意が必要。</p> <p>(様式8-4)</p> <p>これまでの取組経過を踏まえ、令和 4 年度以降の業務を見越した提案となっている。</p>

審査結果	<p style="text-align: right;">以 上</p> <p>・第一次審査の結果、A事業者を第一次審査「通過」とし、第二次審査(プレゼン)に進出することとした。</p> <p>A事業者には審査結果を令和3年3月23日(火)中に連絡予定。</p> <p>第二次審査は令和3年3月 29 日(月)14:00~15:30 に実施予定。</p>
------	--